



Beyond Global and Local - Seeking for Common Sense & Principle of Global Society -

神戸

旅

熊野

世界

『ナマコの眼』
中心と辺境

船と航海

総合商社
貿易、営業、SCM
Logistics、海外勤務
事業開発
組織マネジメント

グローバル
マネジメント

NGO
ネットワーク、自律分散
自己組織化、創発
個と全体

マトリックス
マネジメント

石貨航海
プロジェクト

自然と文化
方法としての伝統

日本における
外資系企業
マネジメント

空間認知

身体知

価値共有

人財

海

信頼構築力

コミュニケーション
スタイル

コモンセンス

e-Commerce
Social Eco-Logistics
Platform

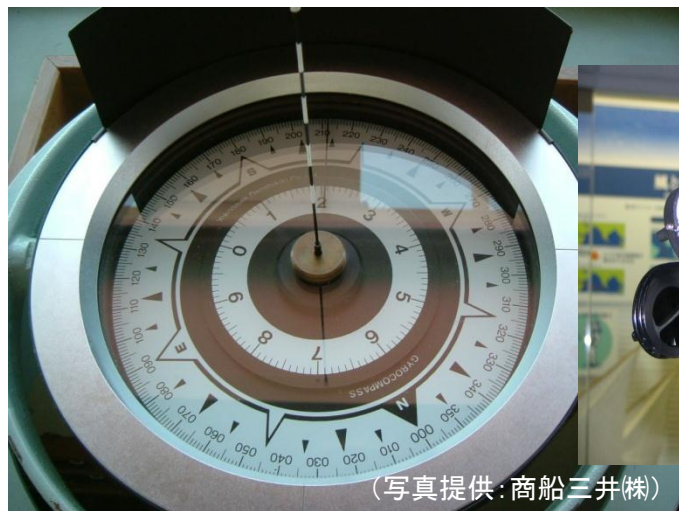
音楽とスポーツ

姿ハ似セガタク
意ハ似セ易シ

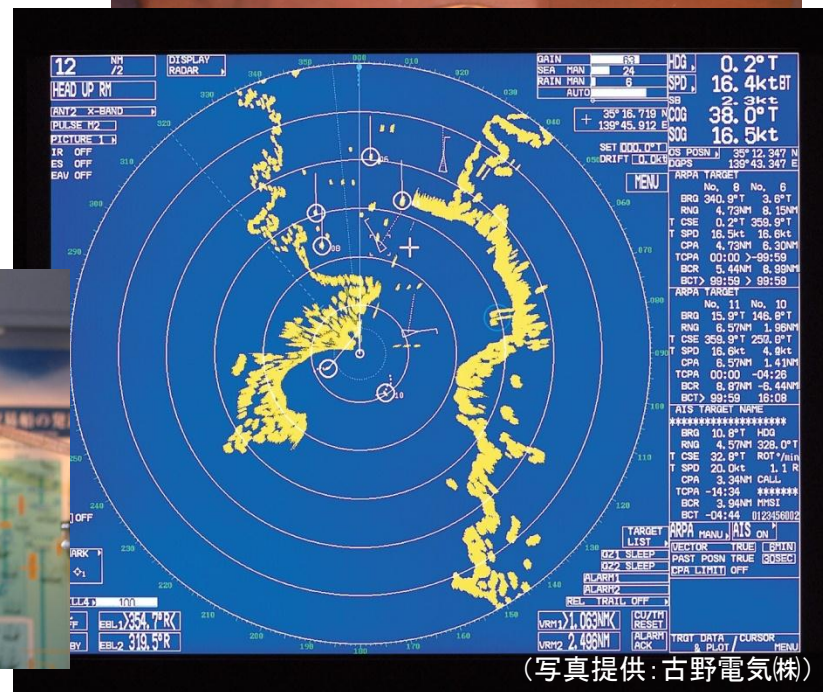
イメージの力で海を渡る



船と航海の技術・科学・思想について



(写真提供: 商船三井株)



(写真提供: 古野電気株)

ヤップ島



カヌーの建造！



(写真提供: 田中拓弥)



(写真提供: 田中拓弥)

カヌーの完成！



ヤップ～パラオ間の石貨交易航海の再現！



ミクロネシアの伝統航海術



(写真提供: 原哲)



スターコンパス(写真提供: 原哲)



(写真提供: 原哲)



スティックチャート(写真提供: 門田修)

ヤップ～パラオ間の石貨交易航海の再現！



石貨交易航海再現プロジェクトを通して見えたもの...

＜航海術＞

出発点は空間認識

自分の位置を知ること
自分の進む方向を知ること
船を操る技術

＜身体＞

感覚とイメージ

自然としての身体
場所とイメージと記憶
身体知の体系

＜渡海＞

『人は何故、如何に海を渡るのか？』

渡海の動機と目的
航海の知識と技術
環境への適応

＜文化＞

人と自然とモノの関係性

他者との遭遇と自己対象化
関係の様式化と共有化
伝統という方法

＜ネットワーク＞

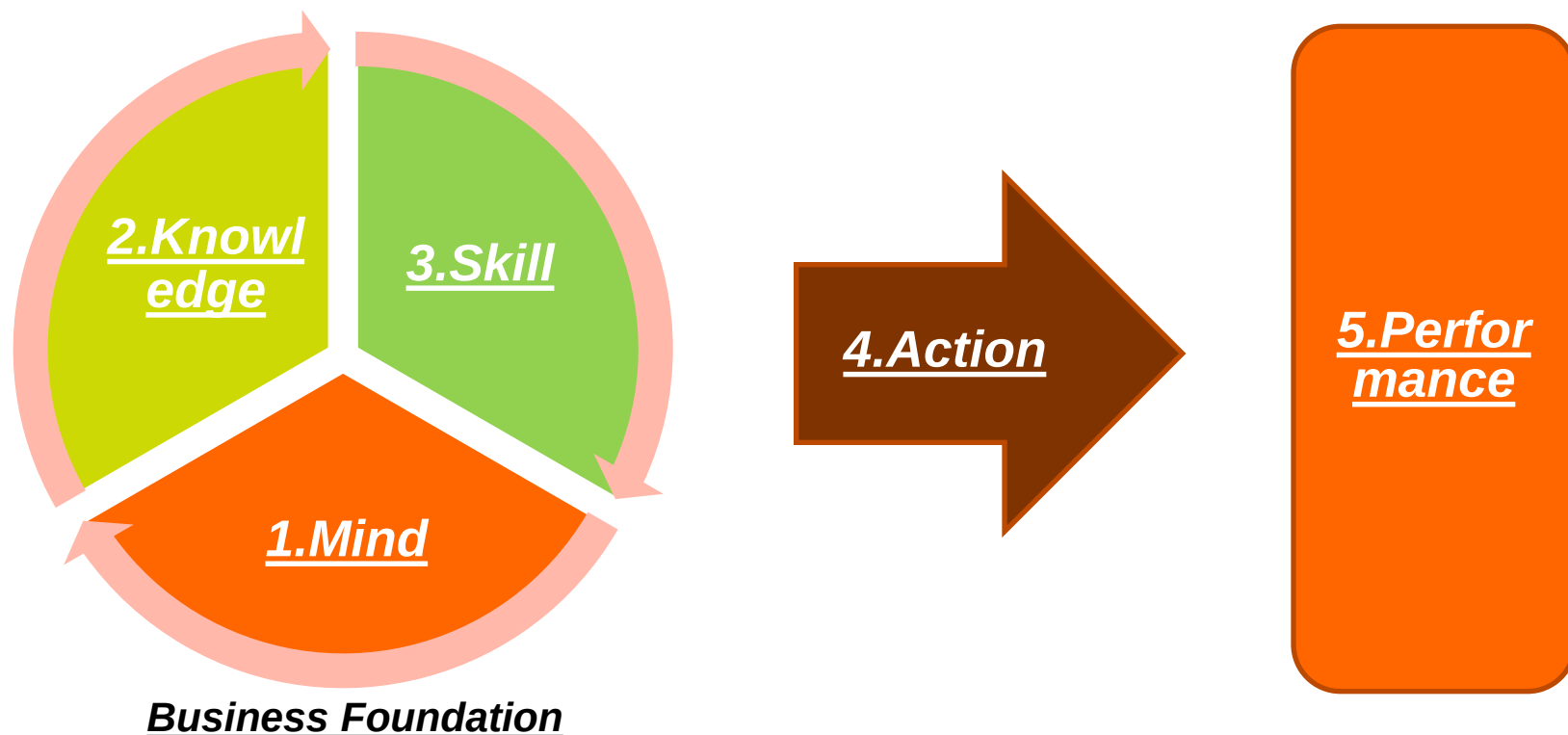
グローバル & ホロニック

個と個、個と全体の関係
自己組織化と創発
自律分散と集中制御

私自身が、日本を含む世界の様々な国や地域で携わってきた企業やNPOでの仕事を通して考えてきた、「人財」(人材ではない)の定義

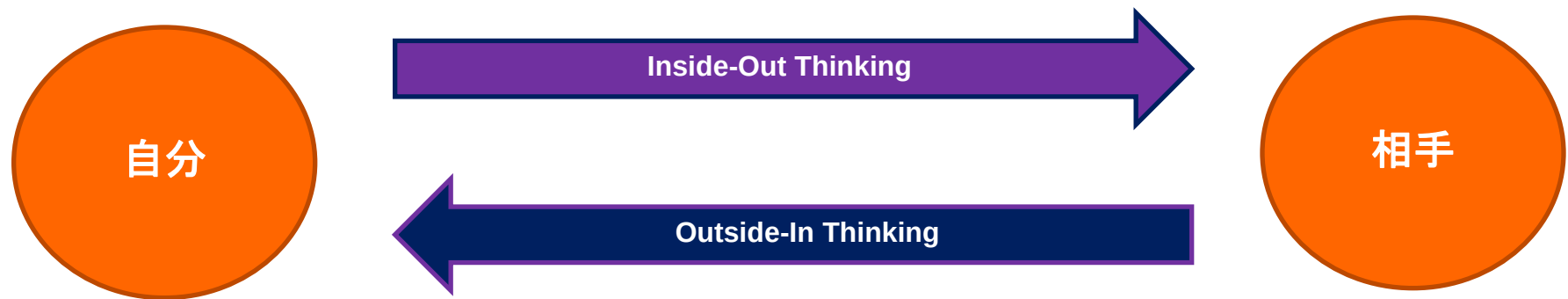
仕事における人財とは、「仕事を通してお客様と仲間、社会に価値を提供し、そのことを通して自分自身の人生を価値あるものにする人」

それを実践して、実際にPerformanceを上げるためには、一定のBusiness Foundation (Mind、Knowledge、Skill)と「実行力」が必要で、それを具体的に示せば求められる「人財」像は明らかになる。



仕事において、お客様と仲間、社会に価値を提供しようと思えば、相手の性格、価値観、ニーズ、感情と論理、また相手が属する集団や社会の文化、環境、ニーズ、意思決定プロセスを理解し、その共感と合意を得ながら信頼関係を築き、価値共有するためのコミュニケーションの力が必要。つまり、多様な人と社会への対応と、その差異をマネジメントする能力が求められる。それは、日本の内でも外でも何ら変わりはない。

コミュニケーション能力は「人財」の重要な要件だが、特に「Outside-In Thinking」によって相手を正しく理解する能力を高めることが必要。



また、ハイコンテクストなコミュニケーション文化に慣れ親しんでいる日本人は、ローコンテクストなコミュニケーション文化圏に属する人たちとコミュニケーションする際には、特にわかりやすく丁寧に話す必要がある。ちなみに、私自身が考えるビジネスコミュニケーションの基本は以下の3つのこと。

率直・正直・公正

簡潔・明瞭・論理的

情熱・感謝・パーソナル

政治・経済の世界においてパクス・アメリカナの延長と揶揄されがちなグローバリズムのことではなく、これから人類が築いていく地球規模の生態系的なく社会＝共同体＞としてグローバル社会を捉えるならば、単に文化相対主義の観点に立って、その差異をマネジメントしてだけでは済まされない。何故ならば、そうした差異を超えた「普遍性」がないと、真のグローバル社会は成り立たないから。

人類が生み出した言語や宗教、文化の原初の姿（構造や記号で語れない段階の、霊性を帯びた言葉。自然とその延長としての他者、自己の身体への畏怖として生まれた信仰。自然、他者、自己の身体との関係性たる文化の原型）を参照しながら、歴史の中で人類が作り出してきた様々な差異を超えた「コモンセンス」を再発見・認識すると共に、グローバル社会の普遍的な「プリンシプル」を構築・共感・合意するための活動が必要。

こうした考えに基づき、今日の段階で求められる「グローバル人財」を定義するとすれば、さしあたり以下のようなになるだろうか・・・。

グローバル人財とは、「人類共通の「コモンセンス」を認識し、グローバル社会の普遍的な「プリンシプル」を構築することの重要性を理解した上で、個人と社会の多様性を理解・尊重し、その差異を適切にマネジメントすることによって、他者（例：お客様と仲間）と社会に価値を提供する人。そして、そのことを通して自分自身の人生を価値あるものにする人」

参考記事 : 拓海広志「イメージの力で海を渡る(1)(2)(3)」

<http://d.hatena.ne.jp/HelloseaWorld/20070114/p1>

<http://d.hatena.ne.jp/HelloseaWorld/20070115/p1>

<http://d.hatena.ne.jp/HelloseaWorld/20070116/p1>

参考記事 : 拓海広志「『グローバル』の普遍性」

<http://d.hatena.ne.jp/HelloseaWorld/20131201>

参考記事: 拓海広志『ザ・外資』

<http://d.hatena.ne.jp/HelloseaWorld/20060829/p1>



(写真提供: Trireme Trust)



(写真提供: ザ・ロープ)



(写真提供: The Golden Hinde Education Trust)



(写真提供: ザ・ロープ)



(写真提供: 門田修)



(写真提供: 門田修)